大人にはわからない日本文学史

高橋源一郎

教材のねらい

1　選定の理由

ここまでに、古文、漢文、近現代文、そして詩歌の学習を積み重ねてきた。本教材では、最後に学習の道のりを振り返り、現在において過去の作品を読むことの意義について改めて考えたい。

筆者は、文学史について独自な考え方をしている。過去の作品を、現在の自分から遠く離れたものとしてではなく、同時代に起きつつある、自分にとってインパクトのある出来事と同様に見ているのである。すでに定まった作品についての評価を知り、それらを時期に従い、流れとして理解するような文学史の学習が、日本の来歴を知る重要な学習の一角であるのは言うまでもない。だが、それぞれの作品を自身で読み、評価を考え直す過程こそ、論理的な理解、創造的な読解、他の作品や時代状況もふまえた批評などが要求される、主体的かつ総合的な学習である。これは、伝統を現代に生かすことにもなる。

本教材は、そうした考え方を自分で発見した際の楽しさを、かつての体験に即したわかりやすい語り口で説明するものである。論理的に読み込める教材であるが、同程度に、この楽しさに寄り添いたい。

2　指導のねらい

本教材では、筆者が若き日に、ビートルズをきっかけとして、文学史について、一般的な理解とは異なる考えに至った感動が、生き生きと描かれている。ただし、現代の生徒にとっては、ビートルズがすでに歴史に属すると考えられるので、論の展開を辿り、筆者の感動の質を論理的に理解する、または自分の体験などを思い合わせて体感的に理解するなど、複数のアプローチにより、筆者が感じている面白さを理解したい。そのうえで、「言語文化」の学習全体を振り返り、自分なりに意義付けたい。

(1) 文章に即して、筆者の「過去」や「歴史」に関する考え方の独自性を整理する。

(2) 教材に書かれている筆者の体験が、どのような点で本人にとって重要であったのかを理解する。各自の体験の中で、類似の体験があるかを考えてみるのもよい。

(3) 筆者の考え方について、古典や漢文、近現代の作品を読む上で、どのような点が有意義か考える。

(4) 本教科書のこれまでの学習を総合し、古典から現代までの作品を見渡して、自分なりの文学史を作る。それを通して、「言語と文化」全体の達成を振り返る。

3　評価規準

(1) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔知・技〕(1) ア

(2) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。〔知・技〕(1) イ

(3) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔知・技〕(1) ウ

(4) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。〔知・技〕(1) エ

(5) 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔知・技〕(2) ア

(6) 時間の経過や地域の文化的特徴などによる言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。〔知・技〕(2) エ

(7) 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。〔知・技〕(2) カ

(8) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔思・判・表〕B (1) ア

(9) 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔思・判・表〕B (1) イ

(10) 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。〔思・判・表〕B (1) ウ

(11) 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔思・判・表〕B (1) エ

(12) 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔思・判・表〕B (1) オ

(13) 進んで筆者の「歴史」や「文学史」に対する考え方を整理し、「自分の文学史」を作ることを通して、今までの学習を生かして、我が国の言語文化についての理解を深め、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕